

藻場分布状況モニタリング調査

(藻場分布状況モニタリング調査事業)

吉田太輔、佐々木 正

1. 調査目的

近年、全国的に藻場が衰退傾向にあり深刻な問題となっている。そこで、県内の大型海藻を主体とする藻場分布状況について継続的なモニタリング調査を行うことにより、近年の藻場減少の現状把握を行うとともに、その原因について明らかにする。

2. 調査方法

調査は前年度と同様に松江市沖泊（沖泊漁港南側）、出雲市坂浦（若松鼻東側）、浜田市外ノ浦（樽付け湾）、知夫村薄毛（大波加島西側）の4地区において大型海藻の繁茂時期である春季を主体に空撮および潜水調査により実施した。空撮調査では、ドローン（DJI社製 Phantom2）を用いて各地区とも海岸線距離300～500mの概ね水深10m以浅の範囲の藻場の分布状況の把握を行った。潜水調査では、各地区とも2本の調査ライン（長さ100m）を設けて、ライン上10m毎に被度、坪刈り調査（ベルトトランセクト法）を実施し、藻類の種類や量を把握した。

3. 調査結果

沖泊地区の主な藻場構成種は、アラメ・クロメ・ノコギリモク・ヤナギモク・ヨレモクで、被度は0～100%、単位面積当たり重量は0～15.6kg/m²の範囲であった。

坂浦地区の主な藻場構成種は、アラメ・クロメ・ワカメ・アカモクで、被度は50～100%、単位面積当たり重量は0.8～18.4kg/m²の範囲であった。前年まで殆ど大型海藻が生えていなかった水深5m以深の沖側にクロメ群落が形成され、分布域の拡大が認められた。

外ノ浦地区の主な藻場構成種は、クロメ・ヤツタモク・ヤナギモク・ヨレモクで、被度は40～100%、単位面積当たり重量は1.2～6.7kg/m²の範囲であり、前年と比較して藻場の分布状況に大きな変化は見られなかった。

薄毛地区の主な藻場構成種は、アラメ・ツルアラメ・ワカメ・ノコギリモクで、被度は0～90%、単位面積当たり重量は0.1～12kg/m²の範囲であり、前年と比較して藻場の分布状況に大きな変化は見られなかった。

なお、沖泊地区の調査定点付近では調査を実施した5月下旬において、概ね水深5m以浅の大部分の海藻が枯死する現象が観察され、前年同期と比較して2～3ha程度の藻場が消失したと推定された。今年度は当県において南方域を発生源とするアカモクの流れ藻が大量に漂着した特異的な年であり、この時も海藻が枯死した付近ではアカモクの流れ藻の大量漂着が観察された。さらに同時に調査定点付近の浅海域において、*Noctiluca scintillans*を主体とするプランクトン類の漂着による海水の濁りやヌタ状の白い堆積物が海藻の表面を覆う状況が観察された。他、付近の海底では腐敗した海藻片の堆積とともにアワビ、サザエ類をはじめとする魚類、甲殻類等の生物の死亡個体が多く観察された。これらのことから、当地区で発生した海藻の枯死は、アカモクの特異的な大量漂着と赤潮プランクトンの発生時期が重なったことに加えて、静穏な日が続き海水が滞留し易かったこと等の複合的な要因で酸欠等の悪条件が継続したことにより発生した現象であると推察された。